

年度	科目名	課題領域	単位数		
2023年度	教育実践研究	学校での観察実習	1		
授業の目的	1. 学校現場において、外国につながる児童生徒の受け入れ体制、日本語指導、JSL等、指導や支援の実際を観察する。 2. 観察を通して、外国につながる児童生徒の指導や支援の方法を考える。				
学修目標 (目標とする資質・能力)	学校や児童生徒の実態に合わせて、適切な指導・支援や児童生徒との関わり方を考えることができる。				
各回の授業内容					
回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	11月～2月 に実施予定	90分	事前指導	現場での観察実習の前に、留意点や、観察の観点等を学ぶ。▷I, M	藤本典子（教育学部 客員教授）・鹿嶋恵 (大学院教育学研究 科 特任教授)
2		3時間	日本語指導センター校等における実習(1)	実習校内の日本語指導教室や在籍学級において、日本語学習や教科学習、学習支援等の観察実習を行う。 ◇実習校：熊本市立黒髪小学校、熊本市立桜山中学校、菊陽町立武蔵ヶ丘小学校▷J, M	実習校の担当教員、 藤本典子・鹿嶋恵
3		3時間	日本語指導センター校等における実習(2)		
4		3時間	日本語指導センター校等における実習(3)		
5		90分	事後指導	観察実習で得た成果を振り返り、気づきや成果を共有する。▷M, N	鹿嶋恵・藤本典子
履修条件	教員免許保有者に限ります。また「教育実践研究」のみの部分受講はできません。必ず「外国につながる児童生徒の教育Ⅰ」「同Ⅱ」を併せて受講して下さい。				
評価の方法	授業への参加、事後アンケート				

▷A～Nの記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育を担う教員の「養成・研修の内容構成」に該当する。詳しくは、次の文献のpp.5-10を参照。公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（<https://mo-mo-pro.com/report>）